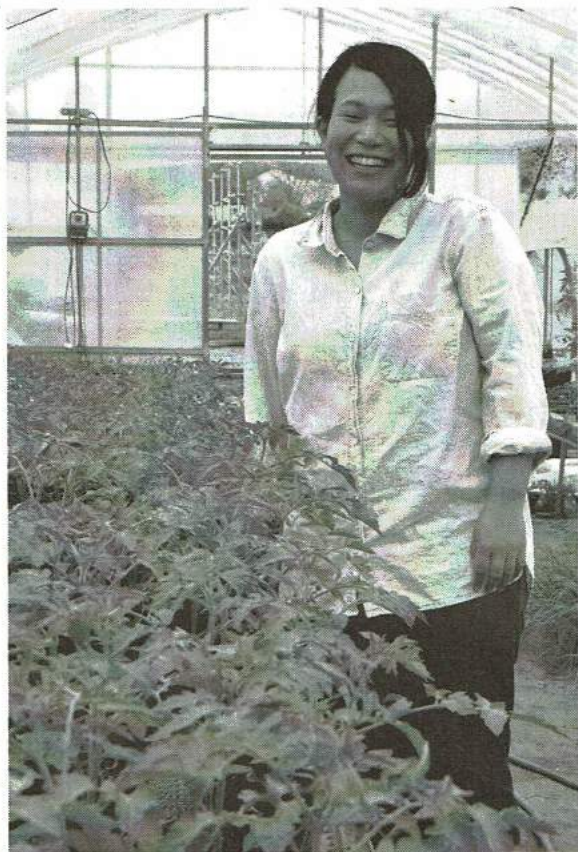


発信 わたしスタイル\*

札幌市

東海林 幸恵さん(31)



釧路管内標茶町の酪農家の生まれです。農業は多忙なイメージが強く、小さい頃はやりたいたいと思いませんでした。が、自然環境や加工品など裾野が広い世界だと高校時代に学び、興味を持ちました。進路に悩み抜いた末、農業教師を目指し進学しました。十代の頃はマイナス思考で周りのせいにしてがちな性格でしたが、「何を交えるのにも

農業理解と経営両立

自分次第」という高校時代の恩師の言葉が背中を押してくれました。ただ、免許取得に向けた教育実習で「何を伝えればいいのか」「経験していないことを教えていいのか」など、自問自答し、悩む日々を経験しました。そうするうちに、実際に農業をする方に心が傾いていき、札幌市の新規就農支援事業などに関わった後、2011年、同市の農業生産法人「ふるさとファーム」の農場長になりました。後継者ではないので、ゼロからのスタートです。水道もないうちで初期投資をし、規模を少しずつ広げながら、経営をつくり上げる厳しさは、想像以上でした。それを思うと標茶町で開拓し、3代続く牧場の土台を築いた祖父の苦労と偉大さを感じています。昨年と同ファームの代表と交流することや、自分と交わす、社員やパートタイマーに仕事を任せていく姿勢を大事にしています。まずは、売り上げ1500万円が安定した経営の実現と子どもが農業に触れる場づくりを目標とす東海林さん

最低ラインです。規模では遠く及びませんが、経営者として父らと意見交換できる充実感もあります。札幌市内の子どもらが農業体験できる畑があります。決まった日程ではなく、気軽に見に来て土に触れる環境を大事にしています。農業について「教える」「伝える」という夢は、農家という立場で少しずつできていくかなと思います。農家としては農業に触れる機会を増やすこと、経営者としては経営を改善しながら、人を育てること。年齢や性別を問わず、こうした意識を持つことが大切だと考えています。

経営メモ

札幌市の農業生産法人「ふるさとファーム」の代表。ハウス10棟(35坪)で、夏はミニトマト、冬はちぢみホウレンソウを生産する。

職員が先生役 地域の魅力も

生協組合員 田植え体験 J Aみねのぶ 空知管内J Aみねのぶと札幌市民生協は5月28

らによる田植え体験を行った。同生協の南空知・石狩B地区の組合員や関係者ら50人が参加し、「お米を知る体験」をスタートさせた。生協の組合員家族の他、田植えの経験がない同J A新入職員らも体験。幼児も泥だらけになりながら、元気に参加した。苗籠に「ふっくりんこ」を入れ、豊作を祈りながら1株ずつ植えた。田植えをするのは9年目。食育の一環として1年を通して米作りを知ってもらおう。J A青年部が手伝い、女性部は昼食のカレーライス作りに協力した。田植え後、J Aや生産者を取り組む環境に優しいハイブ米や、ドジョウを放流して安全性を証明した土生(どじょう)米などについて説明。米の生育の観察や夏休みの自由研究に使えるようにと用意したバケツ苗にも、ドジョウを入れる子どももいて盛り上った。田植えに参加した岩見沢市の小学2年生、柳澤春さんは「前にも田植えをした。真つすぐ植えるのが難しかった」と感想

今日の

Weather forecast table with columns for date (3土, 4日, 5月, 6火, 7水, 8木, 9金) and temperature/humidity data for various locations like札幌, 岩見沢, 空知.